

ごあいさつ

このたび、「文化財レスキュー展 in 仙台」を開催する運びとなりました。

文化財レスキューは、被災文化財の復旧の支援が第一の目的です。東北学院大学文学部歴史学科の民俗学ゼミナールと考古学ゼミナールでは、被災文化財等救援委員会が現地でレスキュー活動を行った石巻文化センター所管「石巻市鮎川収蔵庫」収蔵資料のクリーニングと保全作業にあたってきました。内容は民俗資料約4000点、考古資料平箱60箱のコレクションです。また、宮城歴史資料保全ネットワークがレスキューした板碑の拓本資料(個人所蔵)の保全作業も、中世史ゼミナールによって進められてきました。

津波の泥を落とす「一次洗浄」は、約10か月を要しました。現在は、より状態を安定させるための「二次洗浄」を行っています。

こうして保全された資料は、ただモノとして残しただけでは不十分です。それが地域の歴史にどのように関わっているのか、その資料からどのような魅力的な地域像を描けるか、そうしたことを考えるための材料となるのがバックデータです。民俗学ゼミナールでは、今年の夏に津波の被災地である石巻市鮎川で、レスキューされた資料の展覧会を開催し、会場で人々に聞き書きを行い、データを蓄積する活動を行いました。

今回の仙台展もそれを意図しています。仙台市周辺には、牡鹿半島から多くの人々が避難・移住しています。レスキューされた資料は、地域在住の人々のみならず、地域を離れた人々、また他地域の人々にとっても意味のあるものとなっていくことができれば、復興過程でのコレクションの活用の道も開けてくるのではないかと考えています。

学生たちが、みなさまといろいろとお話しさせていただき、今後これらの資料をどのようにいかしていくことができるか、ともに考える機会としたいと思います。

東北学院大学文学部

准教授 加藤 幸治